

建築・デザイン学科の教育目標

【教育目標】

山形大学及び工学部の教育目標を踏まえ、教育プログラム（建築・デザイン学）では、地域の都市・自然環境に基づいた安全・安心で快適な都市・建築空間を創造することを目指して、健全な価値観と協調性、豊かな人間性及び社会性、実践的に人類の幸福に貢献するための幅広い教養とともに、工学の基礎と建築・デザイン学の専門知識及び技能を養う教育を行います。これらの能力により自ら新分野を開拓しながら、人類の幸福と発展に貢献する技術の創造と産業の創成を実践する人材を育成することを目標としています。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び工学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（建築・デザイン学）では、基盤共通教育及び専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（工学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- (1) 専門分野の社会的意義や職業的な責任感を自覚し、倫理的に正しい判断をする能力を身につけている。
- (2) 社会的・職業的に自立心に富み、社会と産業の発展に貢献する意欲を身につけている。
- (3) 他分野の技術者や専門家、市民と協力しながら、課題解決に取り組む能力を身につけている。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- (1) 論理的な思考力と記述力、異分野や一般市民に専門分野を平易に説明できるコミュニケーション能力を身につけている。
- (2) 既存の枠組みにとらわれず、豊かな発想力により計画的に仕事を進め、課題解決に導く能力を身につけている。
- (3) 国際的及び歴史的な視点から自然や社会に生じる現象の多様性を的確に捉え、身近な問題を中心に課題解決を先導できる能力を身につけている。

3. 専門分野の知識と技能

- (1) 建築学及びデザイン学の基礎知識と、それらを社会及び産業の発展に応用する能力を身につけている。
- (2) 科学技術・芸術に対する知識・情報を的確に把握する能力と、生涯にわたって自発的かつ継続的に学習できる能力を身につけている。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び工学部の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教育プログラム（建築・デザイン学）では、建築・デザイン学科の学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 建築学，デザイン学の基礎として，数学，物理学，情報処理及び芸術の基礎科目とそれらを応用する科目を配置する。
- (2) 専門分野における知識と応用力を養うために，建築・デザイン学の基礎となる建築設計，建築計画学，建築構造学，建築環境学及びデザイン学に関する講義，実験及び演習に関する科目を体系的に配置する。
- (3) 論理的な思考力や記述力，発表と討議の能力及び国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため，演習，実験，卒業研究及び外国語の科目を配置する。
- (4) 健全な価値観と倫理観を身につけるため，技術者倫理，社会理解などに関する科目を配置する。
- (5) 豊かなキャリアの実現に向けた職業観と生涯自己学習能力を養うため，キャリアデザイン，インターンシップ等の科目を配置する。
- (6) 建築・デザイン学分野における，新産業と新技術を創成する能力を身につけるために，最先端の科学・芸術に関する技術が習得できる科目を配置する。

2. 教育方法

- (1) 生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような，多様で学際的な知識と技能が身につく教育を展開する。また，基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2) 問題や課題に対して，グループで計画的に解決に導き，まとめる能力を身につけるため，協働による実験，演習及び実践的科目を配置する。
- (3) 社会的・職業的に自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むため，工学と社会のつながりを理解するための科目を配置する。
- (4) 社会の状況と将来社会の要請を的確に捉え，これに応じて社会の幸福に貢献できる素養を身につけるため，優れた知識・技能・倫理観・価値観・思考力を融合させるための科目を配置する。
- (5) 卒業時に到達すべき学習目標を学生が的確に設定し，達成できるように，各科目で習得される知識・能力を明示したシラバスと各科目の関係性を可視化したカリキュラムマップを策定する。

3. 教育評価

- (1) 到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し，これに基づいて厳格に成績を評価する。

- (2) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生及び外部からの評価を組織的に行い、教育課程を組織的に評価し、常に改善を続ける。
- (3) 良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

建築・デザイン学科履修心得

建築・デザイン学科は、平成29年度に新設された新しい学科です。教科の履修に関しては、本学科のルールに従った履修をしなければなりません。本履修心得を熟読し、不足のないように履修しましょう。

1. 基盤共通教育科目

(1) 基盤共通教育科目について

基盤共通教育科目は、導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目の4つの科目区分からなり、主に1年次に修得します。進級条件、卒業要件を満たすには、表2の単位を修得する必要があります。履修にあたっては、十分に計画を立て、修得漏れがないようにして下さい。履修計画に自信がない場合はアドバイザーとよく相談し、後述する専門教育科目も含め計画的な履修を心がけて下さい。

(2) 基盤共通教育科目の履修上の注意

- ① **【導入科目】**:授業科目名[スタートアップセミナー]
1年前期に開講される科目を修得することが望ましい。
- ② **【基幹科目】**:領域名 [人間を考える・共生を考える] [山形から考える]
1年前期に開講される科目を修得することが望ましい。
- ③ **【教養科目】**:領域名 [文化と社会] [自然と科学] [応用と学際] **【共通科目】**:領域名 [情報科学] [健康・スポーツ] [サイエンス・スキル] [キャリアデザイン]
 - a. **【共通科目】**[情報科学] は必修科目であり、1年次に修得しておくことを強く推奨します。
 - b. **【教養科目】**[文化と社会] のうち [建築職能論 (建築・デザイン学科)] は必修科目で、3年後期に開講されます。
 - c. 前記b.を除く**【教養科目】**[文化と社会] と**【共通科目】**[キャリアデザイン] から8単位以上修得することが必要です。
 - d. **【共通科目】**[サイエンス・スキル] は[微分積分学Ⅰ]と[微分積分学Ⅱ]2科目4単位及び[力学の基礎]を修得することを推奨します。
 - e. **【教養科目】**[自然と科学] と**【共通科目】**[サイエンス・スキル] から合計6単位以上修得することが必要です。
 - f. **【教養科目】**(全領域) と**【共通科目】**[情報科学] [健康・スポーツ] [サイエンス・スキル] [キャリアデザイン] から、上記 a.~e.を含めて24単位以上修得することが必要です。
- ④ **【共通科目】**:領域名 [コミュニケーション・スキル1] [コミュニケーション・スキル2]
 - a. [コミュニケーション・スキル1] [英語1]
1年次に4単位開講されます。次に掲げる外部試験のいずれかにおいてカッコ内に示す成績を修めている場合、その結果を[英語1]2単位分として認定します。

- 1 TOEIC (700点以上)
- 2 TOFEL (500点以上)
- 3 英検 (準1級以上)

この措置で認定できる単位数は最大2単位です。また、認定は、上の成績を修めた学期の次の学期において修得する単位を対象として行われます。

b. [コミュニケーション・スキル1] [英語2]

2年次に開講されます。卒研着手および卒業には2単位必要です。

c. [コミュニケーション・スキル2] (初修外国語)

コミュニケーション・スキル2(初修外国語)は、1年次にドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語及び韓国語がそれぞれ4単位開講されます。修得すると表1に基づいていずれか1か国語4単位までを専門教育科目の選択科目として算入することができます。

また留学生の場合、[日本語]を修得し、その単位を[コミュニケーション・スキル2 (初修外国語)]の単位として振り替えることができます。

表1 コミュニケーション・スキルの専門教育科目への算入可能単位数

区分		最低修得単位を超えて修得した単位の、専門教育科目への算入可能単位数
領域	分野/科目名	
コミュニケーション・スキル1	英語1	なし
	英語2	なし
コミュニケーション・スキル2	ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語	4 (いずれか1か国語)

2. 専門教育科目

(1) 専門教育科目について

建築・デザイン学科の専門教育科目は、「建築・デザイン学科専門教育科目及び単位数表」にしたがって開講されます。履修にあたっては、履修心得に留意して、無理のない学習の計画を立ててください。また、表中の科目は、事情により多少変更されることがあります。この場合には、掲示等により周知します。

(2) 専門教育科目の区分と指定

専門教育科目には、必修科目・選択必修科目・選択科目の指定があります。それぞれの定義は以下の通りです。

区分	表中の記号	定義
必修科目	◎	修得が義務付けられている科目
選択必修科目	○	設定された科目枠から、各自選択の上、一定単位数の修得が義務付けられている科目

選択科目	なし	修得が各自の選択にまかされている科目 必要単位数を超えて修得した選択必修科目，他学科開講科目（4単位まで），および定められた基盤共通教育科目（4単位まで）を算入可
------	----	--

選択必修科目の科目枠は以下の通りです。

- ※ 建築設計製図系科目とは，図学，建築CAD演習，建築設計製図Ⅲの3科目である。
- ※ 建築計画系科目とは，西洋建築史，住環境論，施設計画の3科目である。
- ※ 建築構造・材料系科目とは，地盤工学，建築一般構造，耐震構造，建築材料学，建築材料学実験の5科目のことである。

また，教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状（工業））の授与を受けるには，教職必修科目（「工業技術概論」および「職業指導IまたはII」：科目表中の★）と，「教科に関する科目」（科目表中の☆）から所定の単位数を修得する必要があります。ただし，教職必修科目は進級および卒業に必要とする単位に数えることは出来ません。詳細は，各種資格欄の「I．教育職員免許状について」を参照してください。

(3) 卒業研究

「卒業研究」は原則として建築・デザイン学科に所属する研究室において行い，単位修得には1年以上の研究期間を要します。建築・デザイン学科においては「卒業研究」を行うにあたり，「卒業論文」または「卒業設計」のいずれかを4年次進級時（7学期開始時）に選択します。どちらを選択するかについては，指導教員とよく相談して決めてください。

(4) 他学科開講科目の履修

他学科に開講されている専門教育科目は，8単位まで選択科目として修得することができます。履修を希望する場合には，アドバイザー及び当該授業担当教員の許可を得なければなりません。なお，自学科開講科目と同一名の科目は，履修できないので注意してください。

3. 進級条件・卒研着手条件・卒業要件

(1) 進級条件・卒研着手条件・卒業要件とは

① 進級（研究室配属）条件

建築・デザイン学科の履修地は，1年次から4年次まで小白川キャンパスです。卒研着手のための研究室配属を5学期から行いますが，後述する基盤共通教育科目及び3学期に開講される「基礎設計製図」の修得を研究室配属の条件とします。

② 卒研着手条件

4年次に行われる卒業研究に集中して望むために必要な学修条件で，この条件を満たさないと卒業研究を始められません。

③ 卒業要件

卒業のためには，4年以上在学（特別な理由がない限り休学期間を除く）し，以下に示す卒業に必要な最低修得単位数を満たすことが必要です。

(2) 基盤共通教育科目の進級条件・卒研着手条件・卒業要件

基盤共通教育科目の進級条件・卒研着手条件・卒業要件は表2のとおり定められています。ただし、1年次のうちに2年次以降に開講される「建築職能論(建築・デザイン学科)」と「英語2」を除く単位を充足しておくことを強く推奨します。

科目	領域	分野名/科目名	必要な最低修得単位数			
			進級	卒研着手	卒業	
導入科目	スタートアップセミナー	スタートアップセミナー	2	2	2	
基幹科目	人間を考える・共生を考える	人間を考える	2	2	2	
		共生を考える			2	
	山形から考える		2	2	2	
教養科目	文化と社会	建築職能論 (建築・デザイン学科)		[4]	2	
		キャリアデザイン	8	8	8	
および	自然と科学		6	計 14	6	計 20
	サイエンス・スキル					
共通科目	応用と学際					
	健康・スポーツ					
	情報科学		[3]	2	2	
	コミュニケーション・スキル1 ^[1]	英語1	2	4	4	
		英語2		2	2	
		英語3				
	コミュニケーション・スキル2 ^{[1][2]}					

[1] 基盤共通教育科目の〔コミュニケーション・スキル1及び2〕の単位を卒業要件以上に取得した場合は、専門教育科目の選択科目として合計6単位まで教えることができる。詳細は、「1.基盤共通教育科目(2)④」を参照すること。
 [2] 留学生の場合、〔日本語〕を修得し、その単位を〔コミュニケーション・スキル2(初修外国語)〕の単位として振り替えることができる。
 [3] 〔建築職能論(建築・デザイン学科)〕は6学期に、〔情報科学〕は、1学期に単位を修得しておくことが望ましい。

(3) 専門教育科目の進級(研究室配属)条件・卒研着手条件・卒業要件

専門教育科目の進級(研究室配属)条件・卒研着手条件・卒業要件は以下のとおり定められています。

表3

科目区分		必要単位数		
		進級	卒研着手	卒業
必修科目		2	14	20
選択必修科目	建築設計製図系科目	0	2	2
	建築計画系科目		2	2
	建築構造・材料系科目		4	4
選択科目		0	52	56
卒業研究		0	0	10
計		2	74	94

✓ 選択必修科目は、必要単位数を超えて修得した場合、選択科目の単位として読みかえられます。

- ✓ 選択科目は、カリキュラム表で◎や○が付されていない科目、必要単位数を超えて修得した選択必修科目です。この他に、2. に記した他学科で開講されている専門教育科目を4単位まで、1. に示した基盤共通教育科目の「コミュニケーション・スキル1及び2」の科目を合計4単位まで含めることができます。

4. 研究室配属について

建築・デザイン学科では、3年次に進級する5学期から卒研着手のための研究室配属を行います。上記の3. (2) 及び (3) の基盤共通教育科目及び専門教育科目に関する進級（研究室配属）条件をよく読んで、必要な科目を修得してください。

5. 取得可能な資格

建築・デザイン学科では、所定の要件を満たした場合、教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状（工業））を取得することが可能です。詳細は、各種資格の「I. 教育職員免許状について」を参照のこと。同様に、所定の要件を満たした場合、一級・二級・木造建築士、一級建築施工管理技士の受験資格及びインテリアプランナーの登録資格を得ることが可能となる予定です*。

※平成29年4月現在、試験関連機関から学科カリキュラムの認定を受けるための申請及び申請準備中です。学科カリキュラムが認定された場合、受験資格及び登録資格は、卒業後に一定の実務経験を有する者に与えられます。必要な実務経験年数（0～2年）は取得単位によって異なります。詳細は、各種資格を参照のこと。

区分	授業科目名	単位数	開講期及び週時間数								必修・選択の別	教職科目	担当教員 (備考)
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	5 学 期	6 学 期	7 学 期	8 学 期			
専 門 教 育 科 目	建築設計製図Ⅱ	2					4				◎	☆	佐藤・永井・三辻
	住環境論	2					2				○	☆	佐藤
	施設計画	2					2				○	☆	佐藤
	耐震構造	2					2				○	☆	三辻
	建築材料学実験	2					4				○	☆	三辻
	木質構造デザイン	2					2					☆	河合・三辻
	建築環境エネルギーデザイン	2					2					☆	日高
	建築環境リサイクル	2					2					☆	日高
	建築史演習	2					2					☆	永井
	住まいと庭園	2						2					佐藤
	建築設計製図Ⅲ	2						4			○	☆	佐藤・永井・三辻
	都市・地域計画	2						2			◎	☆	佐藤
	地盤工学	2						2			○		三辻
	建築施工	2						2				☆	三辻
	景観設計	2						2				☆	佐藤
	木質構造デザイン演習	2						2				☆	河合・三辻
	建築構造デザイン	2						2				☆	三辻
	地震工学	2						2					三辻
	建築環境エネルギーデザイン実験	2						2				☆	日高
	建築環境実験	2						2				☆	日高
	建築設計製図Ⅳ	2							4			☆	佐藤・永井・三辻
	振動論	2							2			☆	三辻
	工業英語	2							2				日高
	デザイン基礎	2			2								八木
	地域デザイン論	2			2								永井・佐藤・八木
	地域デザイン演習	2				2							永井・佐藤・八木
デザイン演習	2					2						八木	
インダストリアルデザイン	2						2					佐藤	

区分	授業科目名	単位数	開講期及び週時間数								必修・選択の別	教職科目	担当教員 (備考)	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	5 学 期	6 学 期	7 学 期	8 学 期				
専 門 教 育 科 目	オープンデスク	2					2						建築・デザイン学科教員	
	ゼミナール	2								2			建築・デザイン学科教員	
	卒業研究	10											建築・デザイン学科教員	
	学外実習 (インターンシップ)	2											建築・デザイン学科教員	
	建築・デザイン特別講義	[2]											建築・デザイン学科教員	
	単位互換科目													
	米沢キ ャンパ ス開講 科目	確率統計学	2								2			大 槻
		安全工学	2								2		☆	桑 名
		数値解析	2								2		☆	神 谷
		知的財産権概論	2								2			非 常 勤 講 師
小計	132 [134]													
教職必修科目	工業技術概論	2					2					★	各 学 科 担 当 教 員	
	職業指導 I	2										★	各 学 科 担 当 教 員	
	職業指導 II	2											非 常 勤 講 師 (IとIIは交互に隔年開講、一方は必修)	
	小 計	6					2							
合 計	138 [140]	4	4	2 4	3 0	3 0	2 6	2 6	1 2					

[注] ◎：必修科目（修得が義務付けられている科目）

○：選択必修科目（設定された科目枠から、各自選択の上、一定単位数の修得が義務付けられている科目）

空欄：選択科目（修得が各自の選択に任されている科目）

☆：免許科目「工業」の教科に関する科目

★：免許科目「工業」の教科に関する科目（必修）

[]：特別講義単位数

